

イジメの手本はどこに？

日曜ジジ通信三〇七号で福島から横浜に避難して来た中学生へのイジメについて触れた。「参考人の意見は聞いた」だけ。反論もせず、戦争法を通した。

イジメはどういう風に起きるか？いじめる側は多勢に無勢でいじめる。福島からの避難者が放射線を発する訳では無いし、バイ菌に満ちている訳でも無い。そう云って反論しても、反論を聞かない。反論に応える事も無く、少数者を攻撃する。

これって大人の世界でも良くあることでは無いか？

今回のカジノ法案でもろくに議論しない。カジノは賭博客の負けが収益。それを成長戦略とはおかしい。依存症や暴力団関与の問題もある。こうした指摘に議論を戦わすことなく、自民党は質問時に般若心経を唱えて、数で押し切る強行採決。公明党は党内で議論できず自主投票。

国会では

大人の世界を見ている

安保法Ⅱ戦争法制定の時、自民党推薦の参考人を含め全ての参考人が「集団的自衛権行使は憲法違反」と云った。戦争法を通すなら、参考人の云う論理を打ち破らなければならぬ。しかし、自公は

イジメる子供達は大人の世界の反映。「何が正しいか」議論は要める手本は現国会にあるのだ。

皆さんはどう思われますか？

鍋物の季節となると、ゆずは貴重だ。馬路村の「ゆずで村おこし」とか、馬路村の「ゆずボン酢」や「ゆずこしょう」などを聞いていた。

たまたま、高知県安芸市の友人を訪ねたら馬路村は近い。

太平洋岸から安田川の険しい谷沿いのくねくね

道を進むと三十分余り、川岸の馬路温泉に着いた。夏なら木製のテラスで川風を受けながら呑むビール、いや「ゆずドリンク」は格別だろう。

河原には四角く囲ったプールのような領域がある。夏の子供達の水遊びの場所か。

また山。山の上半分は雲に隠れている。かすかに山の稜線が見える。毎月一日、バラの花を浴槽全面に浮かせたバラ風呂がある。

「何も無い所ですが」と云いながら、粋な計らいのできるところだ。



安田川の対岸

高知県安芸郡馬路村 馬路温泉のテラスから

先週はお休みしました

